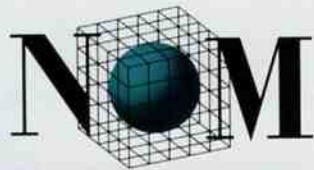


新潟県立近代美術館便り

雪 椿 通 信



第2号

1994.5

美術連話(2) 「ジャポニスム」

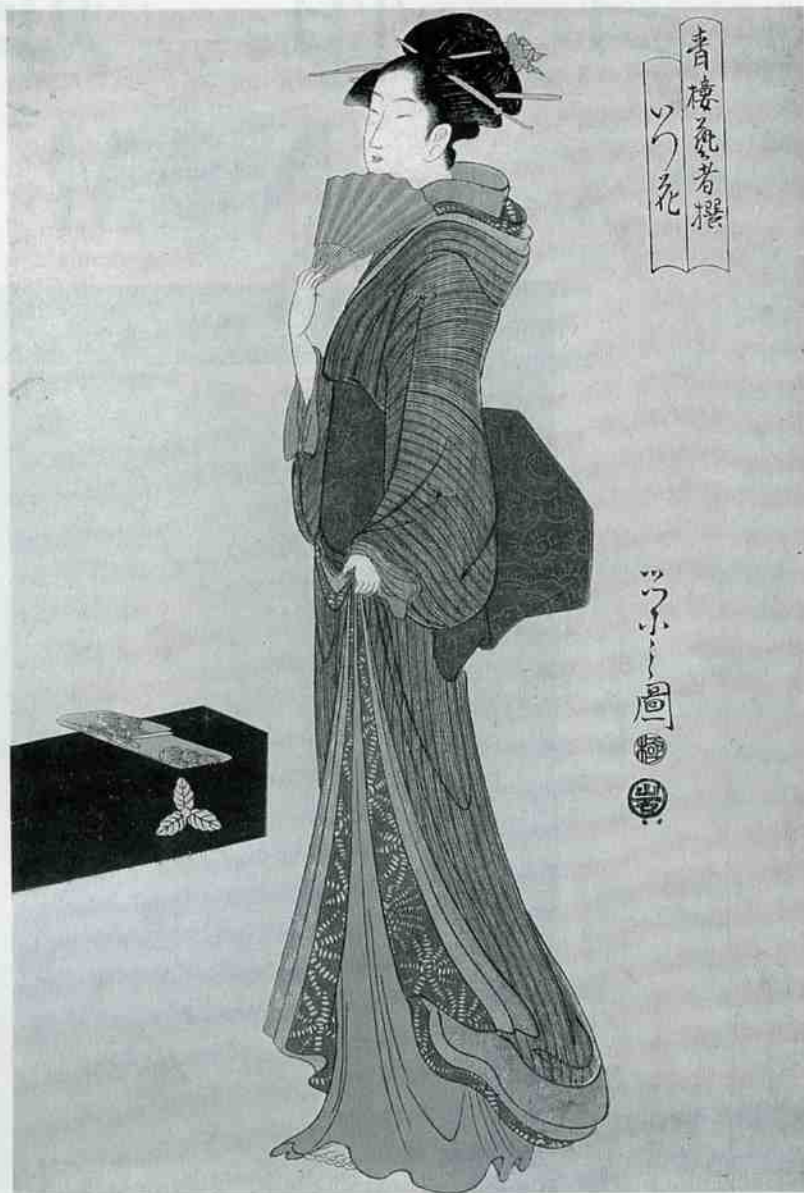
新潟県立近代美術館長 前川誠郎

当館が所蔵する外国美術の作品についてはその収集に関して幾つかの方針が設けられている。その中でも日本の美術から影響を受けた外国作品としてジャポニスムは最も大きい比重を占める。

ジャポニスムとは幕末から明治初頭へかけて我が国より多量に輸出された浮世絵や漆器また陶磁器等が、それまで西欧人にとって全く未知の国 (terra incognita) であった日本からの驚嘆すべき音信として熱狂的に受容され、その結果として十九世紀後半の欧米の美術に顕著に認められる日本調を指して呼ぶ言葉である。現象的にはその百五十年ほど前に欧州を風靡した中国美術の影響、いわゆるシノワズリーに似ているが、それが西洋磁器の生産を促進したことを別とすれば、多くが中国風のモチーフの使用にエグゾティスムを求めるに留ったに対し、ジャポニスムは西洋人のものの見方を根底から変えて以前の伝統的美術に終止符を打ち、外光派や印象派およびそれ以降のさまざまな革新的動向を生み出す大きな機縁となった。

その際日本美術はいわば触媒の役を果たしたのであって、ジャポニスムは決して単なる模倣ではなく、欧米人自らの積極的な造形活動であったことを忘れてはならない。それとともに千数百年の長きに亘って隣国関係にあった中国や朝鮮が、わが国から何らの文化的影響を受けることなく終始したことを考えると、ジャポニスムは日本が初めて経験した本場に国際的な場への登場であり、しかも日本人自身が全く予期しなかった現象を生起せしめるに至った。

ジャポニスムの研究は、殊にわが国においては、漸く始まったばかりと言ってよい。私たちはジャポニスムという鏡の中に思い掛けない自身の姿を見出して興じかつ驚いている



鳥文斎栄之筆「青楼花者撰」重要文化財 大判錦絵

のである。当館が今般収蔵することとなったモーリス・ドニの《夕映えのなかのマルト》は、この画家の傑作であるに留まらず、数多いジャポニスム美術の中でも指折りの代表的作例である。西空に浮かぶ輝きのない太陽、その光に一面に包まれた影のない世界、そこに立つ若い婦人の姿を隈どる太い輪郭線、彼女の衣裳と庭やテラスの植物のモチーフ的交錯、

どれをとっても極め付けのジャポニスムであり、私たちが想っても見なかったわが浮世絵の西洋的変容である。挿図はドニがこれを見たというわけではないが、この種のわが美女立像の触発があって《夕映えのなかのマルト》が生まれたことは間違いない。東西美術の意義深き出会いの一つの証しである。

平成5年度 新収蔵品

《世界の美術》

油彩

◆M・ドニ

《夕映えのなかのマルト》 1892年
油彩・キャンバス
(表紙作品)

彫刻

◆K・コルヴィッツ

《母親と子供たち》 1924~37年頃
ブロンズ



双子の孫の誕生を契機に作られたというこの作品は、数少ないコルヴィッツの彫刻の中でも十分な大きさがあり見応えのあるものです。「母子」というテーマは彼女の芸術の重要な主題であり、版画作品のなかでも繰り返し取り上げられています。

版画

◆K・コルヴィッツ

《「戦争」2 志願兵》 1922年~3年頃
木版

◆F・ゴヤ

《カプリーチョス(気まぐれ)》
80枚セット 1797~98年頃
エッチング

ゴヤは生涯に4つの重要な連作版画集を残していますが、これはその最初の作品で、後の作品の原点ともなるものです。初版本でしかも当時



のままの保存状態が残っていることや、何枚かの試し刷りを含んでいるなど、非常に貴重なものです。

工芸

◆R・デュフィ

《美しき夏》 1941年
タペストリー

《新潟の美術》

洋画

◆佐善明

《悲しみよ躍べ》 1969年
油彩・キャンバス 他 9点

◆猪爪彦一

《風景》 1990年
油彩・キャンバス 他 1点

工芸

◆石山恵美子

《蒼II》 1981年
七宝・アクリル 他 2点

石山恵美子は新潟市に生まれた七宝焼の工芸家です。この《蒼》のシリーズは彼女の代表作で、フランス・リモージュで行われた第5回国際ビエンナーレ世界七宝展でリモージュ市長賞を受賞したものです。



版画

◆深沢索一

《裏富士》 1939年
多色木版・紙 他 8件19点

《日本の美術》

日本画

◆速水御舟(禾湖) 御舟が17歳で、
《浦津》 1911年 まだ禾湖と号し
絹本額装 ていた頃の作。



彼の若描きの代表作であり、御舟の初期の作風を知る上で貴重な作品です。第16回紅児会に出品したのですが、彼はこの時初めて小林古径と知り合ったという因縁もあります。

◆小林古径

《紫苑》 1933年 絹本軸装

洋画

◆李禹煥

《コレスポンダンス》 1993年
油彩・キャンバス
当館で公開制作された作品です。

◆高橋秀

《アリスの月(黒)》 1976年
ラッカー・アクリル・キャンバス

◆斎藤義重

《反対称三角形No.2》 1976年
木・プラスチック

◆里見勝蔵

《赤と緑の静物》 1928年
油彩・キャンバス

里見勝蔵

は一貫してフォーヴの画風を展開し、強烈な色彩と奔放な筆触による独自の画境を開いた画家です。



この作品は滞仏交友した前田寛治、佐伯祐三らと結成した1930年協会第3回展出品作であり赤、緑、黄、青の色彩対比、鋭い筆勢など彼の画風をよく伝える作品です。

近代絵画の100年 シカゴ美術館展

平成6年4月20日(水)～5月29日(日) * 休館日なし



P・セザンヌ
《花瓶のチューリップ》



A・モディリアニ
《ネックレスの女》



C・モネ
《ノルマンディー号の到着、サン・ラザール駅》

新潟県立近代美術館が開館してから、もうすぐ1年が経とうとしています。これを記念して、当館では4年間の長期にわたり「シカゴ美術館展」を企画してきました。新潟県はシカゴ美術館のあるアメリカのイリノイ州と友好関係を結んでおり、これはそれに因んだ催しでもあります。

シカゴ美術館は、アメリカ合衆国の数多くの美術館の中でもとりわけ充実したコレクションを有し、ボストン美術館やメトロポリタン美術館などと共に全米屈指の美術館といえます。この展覧会はシカゴ美術館の優れたコレクションの中から、主に印象派以降の19世紀のフランス、アメリカ、20世紀欧米の代表的名作を選び、3つのセクションに分けて紹介します。

第一部は19世紀ヨーロッパ絵画。

19世紀のヨーロッパには、科学技術の発達に代表される近代化の波が

押し寄せ、社会や生活、価値観の変化を引き起こしました。それとともに美術の世界にも変化が起こります。芸術家たちは行き詰まりを打破するために、様々な方法を試みました。ここで印象派や後期印象派、ジャポニスムや象徴主義などが生まれてきたのです。

このコーナーでは、一般になじみの深いゴッホ、ゴーギャン、モネ、マネ、セザンヌなどの作品19点を展示します。

第二部は20世紀のヨーロッパ絵画。

19世紀後半の画家たちの試みは、20世紀に入ってさらに様々な表現方法となって美術に変化をもたらしていきました。

画家たちは、固有色を否定した自由な色彩表現をし（フォーヴィスム）、視点を一点に定めることをやめ（キュビズム）、絵画にスピードを取り入れ（未来派）、現実を超えた心の

内側に目を向け（シュルレアリスム）、そして抽象絵画も生まれました。

ここではピカソ、マティス、カンディンスキー、ユトリロなど15点を紹介します。

第三部は19・20世紀のアメリカ絵画。

19世紀、パリは世界の美術の中心地として栄えていました。アメリカの画家も多くパリを訪れ、その美術はまだヨーロッパの伝統に依存していました。ところがここからわずか一世紀の間に、アメリカは今日の世界の美術を先導するまでになります。この絵画表現を振り返り、ホイットラー、カサット、ニューマン、ホフマンなど、23点を展示します。

シカゴ美術館所蔵の名作をみるということだけでなく、19・20世紀のフランス、アメリカの美術の流れを心ゆくまでご鑑賞ください。

©シカゴ美術館

シカゴ美術館展への歩み

— 担当学芸員の日記より —

1993

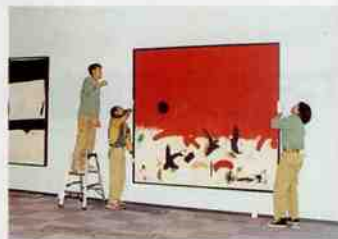
- 4.7 日本に戻る。たった1週間ほどの短い滞在だったとはいえ、シカゴに行き、実際に作品を見て、毎日その研究室（本来は収蔵庫か？）で過ごすことができたのは、やはり得難い経験であった。不馴れな私が無事に帰ってこられたのは、朝日新聞社の小野さんと横浜美術館の村田さんのおかげ。感謝している。
それにしても出張に出る前に大急ぎで長岡に引っ越したから、まだ片付けなければならないものが沢山ある。ちょっとうんざり。
- 5.7 通用口の横のマッシュホールに落ちる。未完成の美術館は危険がいっぱいだ。それにしてもロクなことがない。
- 6.15 シカゴ展カタログ編集会議。愛知県美術館の坪戸さんの細かい準備ぶりに驚く。
- 7.7 誕生日であった。開館記念展の集荷の途中に29歳になったわけである。
- 7.15 美術館の開館日。このために新潟にやってきたのだ。しばし感慨にふける。
- 7.21 シカゴ展カタログ編集会議を、新しい美術館のお披露目をかねて当館で行なう。
館内は慌ただしく、まだどこか高揚した雰囲気が残っている。
- 8.2 長岡といえば花火。すごい迫力。今日と明日。
- 8.4 シカゴ展に関する全体会議を開かせてもらった。第一回目。大がかりな展覧会のため、それまでに決定した事項や進行状況を全て関係者に報告しておく必要があるとの考えから。その後も1~2ヶ月に1度のペースで行なう予定。
- 8.9 シカゴ美術館の20世紀絵画部長のスタッキー氏がご夫妻で来館。昨年ウッド館長が来日された時には建物はまだできていなかったため、今回がシカゴ側からの初めての視察となる。どのような印象をもたれたであろうか。
- 9.10 シカゴ美術館の保安部長のコヴァーマン氏が来館。主にセキュリティに関するチェックが行なわれた。色々トリクエストがありそうだ。夜はカラオケ。
- 10.13 共催していただくNT21（新潟テレビ21）の方にお目にかかる。
- 10.19 シカゴ展の広報媒体計画を固める。道は果てしない。
- 10.21 平成6年度予算の「主要事業説明書」を提出する。シカゴ展は平成6年の4月20日がオープンなので、予算関係も2年にまたがるものが多くて厄介である。
- 11.6 美術史学会の東支部大会が、当館の講堂で開催される。長岡までおいで下さった方々に深く感謝。
- 12.14 カタログ編集会議。締切日が目の前に現れる。
- 12.16 会場構成の原案ができる。
- 12.24 カタログに載せる小論文の指定枚数を2倍近くに伸ばそう、という電話が自宅にかかってくる。とんだクリスマス・イヴだ。

1994

- 1.14 カタログ原稿の内、小論文の締切日(だった筈)。ちょっと遅れてしまった。
- 2.10 ポスター・チラシができてくる。
- 2.15 作品搬入をイースター休暇前にしてくれ、という連絡が入る。イースター休暇って、ひょっとして4月上旬？じよ、冗談じゃない。展示室の準備が間に合わないよう。
- 2.28 全てのカタログ原稿の締切日(だった筈)。
- 3.19 レセプションの案内状を送付する。
- 3.22 企画展示室内で、会場装飾の制作が始まる。直接作品が取り付けられるよう、仮設のパネルをたてなければならぬ。「欧米の美術交流」という展覧会全体の隠れテーマを浮かび上がらせるような構成にしたいが、どうなるか。
- 3.24 作品第1便 成田着。
- 3.25 作品第1便 長岡着。収蔵庫に入れる。
- 3.26 作品第2・3便 長岡着。
- 3.28~3.29 通関手続き



3.30~4.1 作品展示。なかなかいい感じ。



- 4.2 カタログ編集会議。最終校正。
- 4.7 NT21さん、番組制作のための撮影。明日まで。
- 4.8 今日。
あと19日のオープニング・レセプションまで10日余りとなった。まだやるべきことは山ほどある。会場のサインやパネルなどの設置。警備・監視関係の確認。広報番組の制作や、取材の申し込みも多い。その合間を縫って新聞や雑誌に原稿を書く。ああ、「雪椿通信」も書かなきゃ。
だんだん頭がぼけてきている。本当に展覧会が始まり、無事に愛知県美術館さんにバトン・タッチすることができるのであろうか。会期終了の5月29日まで気が抜けない。

(N・S)

学校と美術館の連携について



開館して8ヵ月、美術館を訪れる児童・生徒の数ものべ32校1557人を数えました。学校教育と美術館教育との連携は、当館の教育普及活動の一つの課題です。そこで現在の取組について紹介をします。

当館の利用にあたっては、県条例により教育課程の県内の小・中・高生の観覧料は、常設、企画展とも免除されます。この告知をかねて3月に県内学校宛に展覧会年間スケジュール

ール、観覧料免除申請書と鑑賞学習事前調査表を配布しています。これが最初の美術館からの情報発信となります。これにより年度当初に学校の教育計画に美術館での鑑賞活動を位置づけることを期待しています。

次に学校から送られてくる事前調査表により担当教師との具体的な打合せを行います。学校、教師のニーズ、児童・生徒のレディネス等を聞き、美術館での鑑賞活動の計画を提

案します。そして両者で鑑賞活動の形態や内容について計画を立てます。このような事前準備を十分行うことで、限られた時間での鑑賞活動の充実を図ります。

一方ワークシート等の鑑賞補助資料の作成は、今年度の課題となっていますが、まず常設展示作品の鑑賞資料と各企画展向けのB4版1枚程度のワークシートを作ります。

また、来年8月には北海道立近代美術館他4館と共催で「子どものための美術展光の美術・美術の光」(仮称)を開催します。この準備の過程でも学校との連携のあり方を探っていこうと考えています。



『近代美術館鑑賞講座(音楽)』の開催

「冬期間、少しでも多くの方々に美術館に足を運んでほしい」。こんな館長の願いから企画されたのが本講座です。「SPからLPへ往年の名演奏家を聞く」をテーマに昨年12月から3月まで4回開講しました。

- 第1回「ジョージ・セルの芸術」
- 第2回「ウィルヘルム・バックハウスの芸術」
- 第3回「ブルーノ・ワルターとウィーン・フィル」
- 第4回「ゲルハルト・ヒュッシュとエリザベート・シュヴァルツコップ」



毎回、館長が講師を務め、楽曲・演奏家の解説を交えて愛蔵のレコード、CDを紹介されました。多くの熱心な愛好者を集めて好評だった本講座は一旦終了し、冬に再開する予定です。

◆人事異動◆

転出

- 学芸課学芸係長 桑原 収
- 総務課主任 今井英夫

転入

- 学芸課学芸係長 親跡 峻
- 総務課主任 遠藤 正

新採用

- 美術学芸員 澤井由香子



平成6年度の催し

企画展

- 4月20日(休)～5月29日(日) —近代絵画の100年—
※休館日なし **シカゴ美術館展**
～特別講演会～
* 4月24日(日) 馬淵明子氏(日本女子大学教授)
* 5月1日(日) 水沢 勉氏(神奈川県立近代美術館主任学芸員)
* 5月14日(土) 藤枝晃雄氏(武蔵野美術大学教授)
- 8月27日(土)～9月25日(日) スウェーデンの国民画家
「カール・ラーション」展
※期間中、講演会開催を予定しています。
- 10月7日(金)～11月6日(日) **山種美術館展**
※期間中、講演会開催を予定しています。
- 平成7年2月10日(金)～3月26日(日)
没後40年**「佐藤哲三」展**
※期間中、講演会開催を予定しています。

常設展

- 4月～6月上旬 **近代美術館名品展——新収蔵品を中心に——**
(期間中、一部展示替えをします)
- 6月下旬～9月 展示室1 **特集展示 横山操**
(期間中、一部展示替えをします)
- 展示室2 **不思議な絵**
展示室3 **前期：動きと光の芸術**
後期：三芳悌吉の世界
——「川と魚たち」を中心に——
- 10月～12月 展示室1 **動物を描く**(期間中、一部展示替えをします)
展示室2 **特集展示 阿部展也**
展示室3 **前期：ケーテ・コルヴィッツの版画**
後期：深沢索一「新東京百景」
- 平成7年1月～3月 **冬から春へ**(期間中、一部展示替えをします)

その他の展覧会

- 7月16日(土)～7月20日(水) **県展 長岡展**
■ 8月18日(休)～8月21日(日) **県高等学校総合文化祭 美術**
■ 12月17日(土)～12月25日(日) **第25回新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展**

巡回ミュージアム 当館所蔵の名品を県内3ヵ所で巡回展示します。

- 9月15日(休)～9月24日(土) **能生町マリンホール**
■ 9月27日(火)～10月6日(日) **岩室村公民館**
■ 10月9日(日)～10月18日(火) **関川村公民館大ホール**

県民会館ギャラリー (新潟県民会館3階)

- 平成7年3月4日(土)～3月21日(火) **シリーズ新潟の美術'95**

スウェーデンの国民画家 カール・ラーション展

スウェーデンの国民的画家といわれるカール・ラーション。彼は、詩情あふれる田園風景や温かい家庭生活など、私たちに親しみの深い題材をその確かなデッサン力で描き続けました。

この展覧会では、そんな彼の作品の中から、水彩・油彩・素描を約135点紹介します。

山種美術館展



山種美術館は、近・現代の日本画専門の美術館として全国でもユニークな存在です。その収蔵作品は約1500点を数え、その中には近代の日本画を代表する作品が数多く含まれています。

この数々の名品の中から、大観、古径、栖鳳など近代日本画の代表的作家の作品を一堂に展覧します。

没後40年 「佐藤哲三」展



終生蒲原平野に生きた佐藤哲三は、その風土とそこに住む人々に深い愛情を抱き、これをモチーフとして制作を続けました。

その哲三が没して今年で40年になります。深い象徴性に富む風景画など、多くの傑作を残した彼の画業を回顧します。



(部分)

1892年
油彩・キャンバス

平成5年度の新収蔵品。とても印象的な色彩です。

この作品が描かれた1892年はナビ派が結成された年であり、ドニは22歳の若さでした。

画面には、この前年に出会い、翌年結婚することになるドニの妻、マルト・ムーニエが描かれています。彼女はドニのこの時期の多くの作品に登場します。(当館蔵のドニの版画集《アムール》も彼女がモデルになっています。)

左下にあるアンフォーラ(花瓶)の中にもマルトとドニの二人の顔が見

えます。アンフォーラの把手が腕のようにのび、マルトがドニを抱えるような形に描かれていることがわかるでしょう。ドニのマルトへの愛をうかがうことができます。また、オリジナルの額縁はマルト自身が彩色をほどこしたもので、夫婦合作といってもよい作品です。

もっとも充実した時期に描かれた、ドニの最高傑作といっても過言ではない作品です。当館のナビ派の作品群の中核に位置付けられることになるでしょう。

美術館友の会のご案内

平成6年4月8日、新潟県立近代美術館友の会が発足しました。

友の会は美術を愛する人が集まり、鑑賞会や研究会、会報発行などの活動を通じて親睦を深め、美術館を支援する団体です。

入会すると、常設展の無料観覧や企画展の無料観覧券の配布などの特典があります。

年会費は右記の通りです。詳細や入会のお申し込みは、新潟県立近代美術館友の会事務局にお問い合わせください。

(TEL 0258-28-4111代)

会員の特典

一般会員 <成人、高校生・大学生等>

- ①常設展の無料観覧
- ②企画展無料観覧券4枚の配布
- ③企画展の優待観覧(団体料金相当額)
- ④企画展図録の割引
- ⑤レストラン「しなの」利用額の10%割引
- ⑥友の会会報・美術館たより等の配布
- ⑦友の会主催の研修行事への参加
- ⑧美術館主催事業の案内および優待

ファミリー会員 <ファミリー会員>

- ①常設展の無料観覧(1回4名まで)
- ②企画展無料観覧券15枚の配布

③常設展、企画展の優待観覧(団体料金相当額)

④企画展図録の割引

⑤レストラン「しなの」利用額の10%割引

⑥友の会会報・美術館たより等の配布

⑦友の会主催の研修行事への参加

⑧美術館主催事業の案内および優待
この他に特別会員(個人・法人)があります。

年会費

- 一般会員 一般 4,000円
- 一般会員 学生 2,000円
- ファミリー会員 10,000円
- 特別会員 個人 30,000円(一口)
- 特別会員 法人 30,000円(一口)

利用案内

■開館時間/午前9時～午後5時 ※臨時に開館時間を延長することがあります。

■休館日/毎週月曜日 ただし祝日・振替休日の場合は翌日が休館となります。

※9月26日(月)～9月29日(木)、12月26日(月)～1月3日(火)、3月27日(月)～3月31日(金)は保守点検のため休館します。

■観覧料金/企画展観覧料

企画展によって観覧料が異なります。

なお、同観覧料で、常設展もご覧になれます。

・常設展観覧料

一般 400円(320円)

大学・高校生 200円(160円)

中学・小学生 100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金です。

■施設利用料金/講堂

1日につき 25,000円

ギャラリー

1日につき 16,000円

※ただし、月曜日は休館です。



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県長岡市宮園町字居掛278-14 〒940-21

TEL. 0258-28-4111代 FAX. 0258-28-4115